

「オープン API のあり方に関する検討会」(第 10 回) 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 6 月 28 日(水) 10 時 00 分 ~ 11 時 10 分
2. 議 題：報告書、電文仕様標準および FISC の取組みについて
3. 議事内容：

※ これまでの討議およびその後のメンバーからのコメントを踏まえた「オープン API のあり方に関する検討会報告書」は、以下の URL をご参照。

<https://www.zenginkyo.or.jp/news/detail/nid/8261/>

【総論】

- オープン API に関する取組みについては、金融庁や FinTech 協会のサポートをいただきながら、全銀協事務局から全銀協会員行に本検討会の議論状況を説明する場を設けて、しっかり情報共有していこうと考えている。
- 会員行との情報共有あるいは勉強会等を通して、どうやってお客さまに良いサービスを提供できるか等、FinTech 協会や FinTech 事業者からアイデアをいただきながら、お客さまと FinTech 業界と銀行が Win-Win-Win のサービスを作っていくことについてさらに検討しなければならないと思っているため、こういった場で意見をいただきながら進めていきたい。
- FISC が事務局となって作成されたチェックリストが提示され、具体的な進捗状況が見えてきた。オープン API に係る世の中の関心が高まっており、消費者側も、どのようなサービスが始まるのか関心が高まっている。
- API のアピールポイントは、スクレイピングでできなかったことができるようになる点が挙げられる。スクレイピングによってお金の移動や口座の属性変更等といった更新系のサービスを提供している FinTech 企業は存在しないが、API の場合、そういった便利なツールが出てくるのではないかと考えている。
- API とスクレイピングいずれであっても、銀行との契約が必要となることが法定されたことがこれまでと異なる点である。消費者の立場としては、安全対策について銀行と FinTech 企業がやり取りする機会は今までなかったが、両者の契約を前提にスクレイピングが行われるようになったことから、これまでのスクレイピングとは大きく異なってくると思われる。

【報告書および電文仕様標準】

- 本報告書の位置づけは、銀行界が法律で強制されて対応したというよりは、

全体の動きを見て、銀行界で自主的に API 接続について検討した結果をまとめたものであると思料する。

- 電文仕様標準は、API 構築のコアになる部分だと思っている。銀行と FinTech 企業間の接続をなるべく早く促進していくことが重要であるが、この電文仕様標準は、効率的なシステム開発とオープン・イノベーションの促進のバランスが意識された内容になっていると認識している。

【API 接続チェックリスト】

- FISC の API 接続チェックリストについては、FISC ならびにワーキンググループメンバーの尽力にお礼申しあげる。時間的制約もあり、すべての関係者の意見が踏まえられているわけではない部分もあるかと思うが、各業界からの意見が反映された内容になっていると考えている。今後、このチェックリストが積極的に活用され、寄せられた意見を踏まえて、より実効性のあるものに仕上がっていくことが何より重要だと思う。
- チェックリストをコミュニケーションツールとして活用することがポイントと考える。こういったものを通じて、銀行業界と FinTech 企業の間で、お互いを理解し合いつつ、お客さまのためにどういったサービスがいいのか、といったところを積極的に進めていくツールとして活用していきたいと思っている。

以 上